



平成19年 8月31日

各 位

住 友 化 学 株 式 会 社
東京都中央区新川二丁目27番1号

(コード番号) 4005

(上場取引所) 東京、大阪

(問合せ先) 経理室部長 酒井 基行

(03) 5543 - 5265

当社子会社(広栄化学工業株式会社)の業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、当社子会社である広栄化学工業株式会社が平成19年5月10日の決算発表時に公表しました業績予想を別添資料のとおり修正いたしましたので、お知らせします。

以 上



平成19年8月31日

各 位

会 社 名 広栄化学工業株式会社
 代表者名 取締役社長 長尾雅昭
 (コード番号 4367 大証第2部)
 問合せ先 経理室長 宮下和彦
 (TEL 03-6667-8281)
 当社の親会社 住友化学株式会社
 代表者名 社長 米倉弘昌
 (コード番号 4005 東証第1部)

業績予想の修正に関するお知らせ

本年5月10日の決算発表時に公表いたしました平成19年9月中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日)および同通期(平成19年4月1日から平成20年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

(注) 金額の単位は百万円

【 】連結業績予想の修正

1. 平成19年9月中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(1) 当中間期の業績予想

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想(A)	12,200	550	320
今回修正予想(B)	11,700	900	550
増減額(B-A)	500	350	230
増 減 率	4.1%	63.6%	71.9%
<ご参考> 前中間期(平成18年9月期)	11,021	300	169

(注) 営業利益予想 前回発表 470、今回修正 900
 前中間期営業利益 329

(2) 上記修正の理由は以下のとおりであります。

主に、連結財務諸表提出会社(当社)の平成19年9月中間期の業績予想の修正に伴い、連結業績予想の修正を行うものです。なお、連結子会社において、メタノール価格下落に伴う製品価格の修正が見込まれますので、連結では、売上高が若干減少する見込みであります。

2. 平成20年3月期通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 通期の業績予想

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	25,600	1,460	680
今回修正予想(B)	25,200	1,900	1,000
増減額(B-A)	400	440	320
増 減 率	1.6%	30.1%	47.1%
<ご参考> 前期(平成19年3月期)	23,786	1,251	664

(注) 営業利益予想 前回発表 1,400、今回修正 1,900
 前期営業利益 1,505

(2) 上記修正の理由は以下のとおりであります。

主に、連結財務諸表提出会社(当社)の平成20年3月期通期の業績予想の修正に伴い、連結業績予想の修正を行うものです。

【 】単体業績予想の修正

1. 平成19年9月中間期 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(1) 当中間期の業績予想

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	10,100	550	320
今回修正予想 (B)	10,000	900	550
増減額 (B - A)	100	350	230
増減率	1.0%	63.6%	71.9%
<ご参考> 前中間期 (平成18年9月期)	9,452	267	158

(注) 営業利益予想 前回発表 470、今回修正 900
前中間期営業利益 292

(2) 上記修正の理由は以下のとおりであります。

当中間期の売上高につきましては、予想を若干下回る見込みであります。しかし、損益面につきましては、新製品の伸長や製品構成の改善に加え、製造原価等の合理化推進などにより利益は向上する見通しであります。

2. 平成20年3月期通期 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 通期の業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	21,900	1,460	680
今回修正予想 (B)	22,000	1,900	1,000
増減額 (B - A)	100	440	320
増減率	0.5%	30.1%	47.1%
<ご参考> 前期 (平成19年3月期)	20,847	1,245	677

(注) 営業利益予想 前回発表 1,400、今回修正 1,900
前期営業利益 1,491

(2) 上記修正の理由は以下のとおりであります。

年間業績としましては、企業環境の厳しさは継続するものの、売上高はほぼ予想通りとなる見込みです。損益面につきましては、新製品の開発促進や生産の合理化による既存品の収益力向上に加え、下半期以降、原燃料価格の高騰に対し製品価格の是正を行うことにより、利益は増加する見通しであります。

以上